

# りんご病害虫防除指針

## 目 次

りんご改正事項一覧表	2
(1) 掲載農薬一覧	4
(2) 防除方法	
腐らん病	8
モニリア病	8
黒星病	9
うどんこ病	9
赤星病	10
黒点病	10
斑点落葉病	10
すす斑病・すす点病	11
炭疽病	11
褐斑病	12
輪紋病	12
白紋羽病・紫紋羽病	13
疫病（おそ疫病）	14
根頭がんしゅ病	14
銀葉病	14
モモシンクイガ	15
ナシヒメシンクイ	15
リンゴコカクモンハマキ	16
ミダレカクモンハマキ	16
コンフューザーRによる主要害虫の防除	16
キンモンホソガ	17
ギンモンハモグリガ	17
シャクトリムシ類	17
キリガ類	17
ヒメボクトウ	18
オオタバコガ	18
クワコナカイガラムシ	18
ナシマルカイガラムシ	18
アブラムシ類	19
リンゴワタムシ	19
カメムシ類	19
リンゴハダニ	19
ナミハダニ	19
マメコバチに着生するコナダニの駆除	20

防除方法に記載された農薬には、それぞれのRACコードを( )書きで示していますので、農薬を選択する際の参考としてください。

りんご改正事項一覧表

病害虫名	改正事項	改正内容
腐らん病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25を削除 「ふじの展葉1週間後頃」のトップジンM水和剤、ベンレート水和剤を追加
モニリア病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25、ネクスターフロアブルを削除 「ふじの展葉1週間後頃」のトップジンM水和剤、ベンレート水和剤を追加
黒星病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25、ネクスターフロアブル、オキシラン水和剤、有機銅剤を削除 「ふじの展葉1週間後頃」のチウラム剤を追加 「7月初め」のチウラム剤を削除
うどんこ病 赤星病	掲載農薬一覧 参考及び注意事項	ネクスターフロアブルを削除
黒点病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	オキシラン水和剤、有機銅剤を削除
斑点落葉病 すす斑病・すす点病 炭疽病 褐斑病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25、オキシラン水和剤、有機銅剤を削除 「7月初め」のチウラム剤を削除
輪紋病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25、オキシラン水和剤、有機銅剤を削除 薬剤の選択に関する文章を削除
紫紋羽病	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ベフラン液剤25を削除
その他（病害）	薬害	ベフラン液剤25に関する記載を削除
モモシンクイガナ シヒメシンクイ	掲載農薬一覧 防除方法	サイアノックス水和剤、サイハロン水和剤、アーデントフロアブルを削除
ミダレカクモンハマキ	掲載農薬一覧 防除方法	アタブロンSCを削除
キンモンホソガ	掲載農薬一覧 防除方法	サイハロン水和剤、アーデントフロアブルを削除
ギンモンハモグリガ	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ピレスロイド剤（バイスロイドEW、サイハロン水和剤）を削除
ヒメボクトウ	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	バイオセーフを削除
クワコナカイガラムシ	掲載農薬一覧 防除方法	サイアノックス水和剤を削除
ナシマルカイガラムシ	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	モスピラン顆粒水和剤を削除 コルト顆粒水和剤を追加
アブラムシ類	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	掲載農薬一覧、防除方法からコルト顆粒水和剤を削除し、参考及び注意事項にナシマルカイガラムシの防除に使用した場合はアブラムシ類を同時防除できる旨を追加
カメムシ類	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	サイアノックス水和剤を削除 同時防除できる薬剤からアーデントフロアブルを削除

病害虫名	改正事項	改正内容
リンゴハダニ ナミハダニ	掲載農薬一覧 防除方法 参考及び注意事項	ナミハダニの防除薬剤から、オマイト水和剤、マイトコーネフロアブルを削除  リンゴハダニの「展葉1週間後頃」にバリアード顆粒水和剤を使用する場合のマシン油乳剤に関する記載を削除  ダニオーテフロアブルの銅剤（有機銅剤、オキシラン水和剤）との混用に関する記載を削除
その他（虫害）	農薬節減に係る情報	ギンモンハモグリガ、カメムシ類、ナシマルカイガラムシの農薬節減に係る情報を削除  リンゴワタムシの農薬節減に係る情報からサイアノックス水和剤を削除

1 りんご

(1)掲載農薬一覧

農薬名	F R A C コード	有効成分	・希釈用量数	適用病害虫名													
				腐らん病	モニリア病	黒星病	うどんこ病	黒点病	斑点落葉病	すす斑病	すす点病	炭疽病	褐斑病	輪紋病	赤星病		
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	1000	○	○												
			1500	○													
ベンレート水和剤	1	ベノミル	2000	○	○												
			3000	○													
S D H I 剤	7	フルーツセイバー	2000		○	○	○										○
		ロンセラーフロアブル	3000		○	○	○										○
		カナメフロアブル	4000		○	○	○										○
		パレード15フロアブル	2000		○	○	○										○
ミギワ20フロアブル	52	イプフルフェノキン	4000			○	○										
ユニックス顆粒水和剤47	9	シプロジニル	2000			○			○								
デランフロアブル	M09	ジチアノン	1500			○		○	○	○	○						
チウラム剤	M03	チオノックフロアブル	500			○		○	○	○	○	□	○			○	
		トレノックスフロアブル	500			○		○	○	○	○	□	○			○	
マンゼブ剤	M03	ジマンダイセン水和剤	600			○		○	○	○	○					○	
		ペンコゼブ水和剤	600			○		○	○	○	○					○	
アントラコール顆粒水和剤	M03	プロピネブ	500			○		○	○	○	○	□	○				
パスポート顆粒水和剤	M05	T P N	1000			○		○	○	○	○	○	○	○			
ラビライト水和剤	1	チオファネートメチル	500	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○		
	M03	マンネブ															
オーソサイド水和剤80	M04	キャプタン	800			○				○	○	○	○	○			
アリエッティC水和剤	M04	キャプタン	800			○			○	○	○	□	□	○			
	P07	ホセチル															
ダイパワー水和剤	M07	イミノクタジナルベシル酸塩	1000			○			○	○	○	□	○	○			
	M04	キャプタン															
コナケシ顆粒水和剤	U06	シフルフェナミド	4000				○										
カッシーニフロアブル	50	ピリオフェノン	2500				○										
ポリオキシシAL水和剤	19	ポリオキシシ複合体	1000						○								
オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	2000											○			
ストライド顆粒水和剤	M11	フルオルイミド	1500						○	○	○						

びやくしん類（赤星病の中間寄主）

農薬名	F R A C コード	有効成分	・希釈用量数	適用病害虫名
				赤星病
バシタック水和剤75	7	メプロニル	1000	○

○、□：本冊子で防除剤として適用するもの。

炭疽病、褐斑病：□は多発条件下では防除剤として適用しないもの。

農薬名	I R A C コード	有効成分	希釈 ・使用 量	適用病害虫名																
				モモシ ンクイガ	ナシヒ メシ ンクイ	リンゴ コカク モンハ マキ	ミダレ カクモ ンハマ キ	リンゴ モンハ マキ	キンモ ンホソ ガ	ギンモ ンハモ グリガ	シヤク トリム シ類	クワコ ナカイ ガラム シ	ナシマ ルカイ ガラム シ	アブラ ムシ類	リンゴ ワタム シ	カメム シ類	ヒメボ クトウ	キリガ 類	オオタ バコガ	リンゴ ハダニ
有機 リン 剤	エルサン水和剤40	1B	P A P	1000	○		○				○			○						
	ダイアジノン水和剤34	1B	ダイアジノン	1000	○	○					○		○							
	スミチオン水和剤40	1B	M E P	800	○					○	○			○						
I G R 剤	デミリン水和剤	15	ジフルベンズロン	4000					○	○										
	ノーモルト乳剤	15	テフルベンズロン	4000					○	○										
	アブロードフロアブル	16	ブプロフェジン	1000							○									
	ロムダンフロアブル	18	テブフェノジド	3000				○									○			
	アタブロンSC	15	クロルフルアズロン	4000			○ a													
B T 剤	ファイブスター顆粒水和剤	11A	B T (生菌)	3000				○												
		4000						○												
	バイオマックスDF	11A	B T (生菌)	3000				○												
		4000									○									
ジ ア ミ ド 剤	サムコルフロアブル10	28	クロラントラニプロール	5000			○ b			○						○ b		○		
	エクシレルSE	28	シアントラニプロール	5000			○ b			○						○ b		○		
	テッパン液剤	28	シクラニプロール	2000			○ b									○ b		○		
	フェニックスフロアブル	28	フルベンジアミド	4000			○ b			○						○ b		○		
	ヨーバルフロアブル	28	テトラニプロール	10000			○ b									○ b		○		
シ ス ン ピ 剤 ノ	ディアナWDG	5	スピネトラム	10000		○ c	○ c			○										
	デリゲートWDG	5	スピネトラム	10000		○ c	○ c			○										
	オリオン水和剤40	1A	アラニカルブ	1000	○	○				○									○	
	ウララDF	29	フロニカミド	4000									○							
	キラップフロアブル	2B	エチプロール	4000									○							
	トランスフォームフロアブル	4C	スルホキサフロル	4000									○							
	コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3000								○								
チ ネ オ ニ ド コ 剤	バリアード顆粒水和剤	4A	チアクロプリド	4000	○	○				○	○		○							
	ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	4000	○	○				○	○		○	○	○					
	モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	4000	○	○				○	○		○	○	○					
ビ レ ス ロ イ ド 剤	バイスロイドEW	3A	シフルトリン	2000	○	○				○					○					
	イカズチWDG	3A	シペルメトリン	1500	○	○				○					○					
	園芸用キンチョールE	3A	ペルメトリン													○				
	ロビンフッド	3A	フェンプロパトリン													○				
	ボクトウコナーH	-	コッシンルア	100本/10 a												○				
	コンフェューザーR	-	オリフルア トートリルア ピーチフルア	100本/10 a	○	○	○	○	○											

農薬名	I R A C コード	有効成分	希 積 用 量 数	適用病害虫名																							
				モ モ シ ン ク イ ガ	ナ シ ヒ メ シ ン ク イ	リ ン ゴ コ カ ク モ ン ハ マ キ	ミ ダ レ カ ク モ ン ハ マ キ	リ ン ゴ モ ン ハ マ キ	キ ン モ ン ホ ソ ガ	ギ ン モ ン ハ モ グ リ ガ	シ ヤ ク ト リ ム シ 類	ク ワ コ ナ カ イ ガ ラ ム シ	ナ シ マ ル カ イ ガ ラ ム シ	ア プ ロ ア ド フ ロ ア ブ ル	リ ン ゴ ワ タ ム シ	カ メ ム シ 類	ヒ メ ボ ク ト ウ	キ リ ガ 類	オ オ タ バ コ ガ	リ ン ゴ ハ ダ ニ	ナ ミ ハ ダ ニ						
マ シ ン 油 乳 剤	ラビサンスプレー	マシン油	200																○								
	ハーベストオイル	マシン油	50									○								○							
			200																	○							
	トモノールS	マシン油	50										○								○						
			200																			○					
	アタックオイル	マシン油	50											○								○					
200																						○					
スプレーオイル	マシン油	50											○									○					
		200																					○				
サンマイト水和剤	21A	ピリダベン	1500																			○					
バロックフロアブル	10B	エトキサゾール	2000																				○				
カネマイトフロアブル	20B	アセキノシル	1000																					○			
オマイト水和剤	12C	B P P S	750																						○		
コロマイト乳剤	6	ミルバメクチン	1000																						○	○	
ダニサラバフロアブル	25A	シフルメトフェン	1000																						○		
スターマイトフロアブル	25A	シエノピラフェン	2000																							○	
ダニコングフロアブル	25B	ピフルブミド	2000																							○	
エコマイト顆粒水和剤	23	スピロジクロフェン	2000																							○	
ダニオーテフロアブル	33	アシノナビル	2000																							○	○

○：本冊子で防除剤として適用するもの（○a：「落花直後」に適用する、○b：「7月半ば」に適用する、○c：9月以降に適用する）。

- (注意) 1. サンマイト水和剤は落花直後に使用しない。  
 2. ピレスロイド剤は6月中旬までの使用を避け、その後もできるだけ使用回数を制限する。  
 3. ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。  
 4. コロマイト乳剤は6月下旬までの使用を避ける。  
 5. オマイト水和剤は7月下旬までの使用を避ける。

適用病害虫の中でリンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキは「ハマキムシ類」で農薬登録。ただし、コンフェューザーRは「リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ」で農薬登録。

適用病害虫モモシンクイガ及びナシヒメシンクイのうち、サムコルフロアブル10、エクシレルSE、テッパン液剤、フェニックスフロアブル、ヨーバルフロアブル、ディアナWDG、デリゲートWDG、オリオン水和剤40、バリアード顆粒水和剤、ダントツ水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤、バイスロイドEW、イカズチWDGは「シンクイムシ類」で農薬登録。

適用病害虫シャクトリムシ類のうち、サムコルフロアブル10、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDG、デリゲートWDGは「ヨモギエダシャク」で農薬登録。

適用病害虫クワコナカイガラムシのうち、ダイアジノン水和剤34は「クワコナカイガラムシ若齢幼虫」で農薬登録。

適用病害虫クワコナカイガラムシのうち、アプロードフロアブルは「カイガラムシ類幼虫」で農薬登録。

ボクトウコン-Hは、作物名「果樹類」で農薬登録。有効成分は一般名に置換して表示（コッシンルア：(E)-3-テトラデセニル=アセタート）。

コンフェューザーRは、作物名「果樹類」で農薬登録。有効成分は一般名に置換して表示（オリフルア：(Z)-8-ドデセニル=アセタート、トートルルア：(Z)-9-テトラデセニル=アセタート、(Z)-11-テトラデセニル=アセタート、10-メチルロードデシル=アセタート、(Z)-11-テトラデセン-1-オール、(Z)-9-ドデセニル=アセタート及び11-ドデセニル=アセタートの総称、ピーチフルア：(Z)-13-イコセン-10-オン）。

ラビサンスプレー、ハーベストオイル、トモノールS、アタックオイル、スプレーオイルの200倍、オマイト水和剤、コロマイト乳剤、ダニサラバフロアブル、エコマイト顆粒水和剤、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニオーテフロアブルは「ハダニ類」で農薬登録。ハーベストオイルの50倍、トモノールSの50倍、アタックオイルの50倍は、発芽前の「カイガラムシ類」、芽出し直前直後の「ハダニ類」で農薬登録。スプレーオイルの50倍は、発芽前の「カイガラムシ類、ハダニ類の越冬卵」で農薬登録。

農薬名	F R A C コード	有効成分	希 積 用 倍 量 数	適用病害虫名・使用目的							
				腐 らん 病	銀 葉 病	輪 紋 病	傷 口 の ゆ 合 促 進	白 紋 羽 病	紫 紋 羽 病	有機殺菌剤による果実の表皮障害防止	
フランカットスプレー	19	ポリオキシシンド亜鉛塩		○	○						
バッチレート	M01	有機銅	原液	○	○		○				
トップジンMオイルペースト	1	チオファネートメチル	原液	○							
トップジンMペースト	1	チオファネートメチル	原液			○					
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	500					○			
			1000					○			
ベンレート水和剤	1	ベノミル	1000					○			
フロンサイドSC	29	フルアジナム	500					○	○		
			1000					○	○		
クロールピクリン	(8B)	クロールピクリン	1穴当たり5ml					○	○		
炭酸カルシウム水和剤	-	炭酸カルシウム	100								○
		炭酸カルシウム	100								○

( )はIRACコードを示す

\*クロールピクリンは「紋羽病」で農薬登録。

\*ベンレート水和剤は「りんご(苗木)」で農薬登録。

## (2) 防除方法

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
腐らん病	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 薬剤だけに頼ることなく、常時園内を見回り、早期発見、早期治療を行う。 また、肥培管理、被害枝及び剪定枝の処理など総合管理に努める。</p> <p>2 発芽前の粗皮削りは必ず行う。</p> <p>3 胴腐らんは見つけ次第、次のいずれかの処置をする。 (1) 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。 (2) フランカットスプレー(F:19)及びバッチレート(F:M01)を使う場合は、周辺健全部も含めて病患部を紡錘形に大きく削ってから塗る。 (3) トップジンMオイルペースト(F:1)を使う場合は、病患部を削り取り、更に浸透性を高めるために周辺の健全表皮を薄く削ってから塗る。本剤は薬剤耐性の懸念があるので、再発した場合は、直ちに(1)又は(2)の処置をする。</p> <p>4 切り取った被害枝は園地に放置しないで処分する。また、健全な枝でも切り取ったあと園地に放置せず、支柱にも使用しない。</p> <p>5 治療病斑の大きい枝幹部は折れやすくなるので、適宜支柱を入れる。なお、横径が幹周の2/3以上の大型病斑では治癒率が極端に低下するので、枝ごと切り落として処分する。</p> <p>6 剪定の際は、枝の付け根からできるだけ切り株を残さずに切り取る。また、初冬や厳冬期の剪定を避け、できるだけ3月以降に剪定する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p>	<p>1 剪定は厳冬期を避けて行い、切口にはその日のうちにバッチレートを塗る。</p> <p>2 薬剤は枝幹部にも十分付着するようていねいに散布する。</p> <p>3 摘果後の果柄感染による枝腐らんの発生が多い園地では、「6月中旬」にラビライト水和剤を選択する。</p> <p>4 粗皮感染による胴腐らんの発生が多い園地では、「7月半ば」又は「7月末」にトップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。</p> <p>5 「収穫後」の薬剤散布は採果痕などからの感染防止効果が高いので、発生が多い園地では、ふじの収穫後できるだけ早めに晴天の日を選んで必ず実行する。薬剤はトップジンM水和剤1,000倍又はベンレート水和剤2,000倍とする。</p> <p>※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 ラビライト水和剤 トップジンM水和剤 ベンレート水和剤</p>
ふじの展葉1週間後頃	トップジンM水和剤(F:1) 又はベンレート水和剤(F:1)	
6月中旬	ラビライト水和剤(F:1, M03)	
収穫後(特別散布)	トップジンM水和剤(F:1) 又はベンレート水和剤(F:1)	
モニリア病	<p>[耕種的防除法]</p> <p>葉腐れ、実腐れは見つけ次第摘み取って処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p>	<p>1 「展葉1週間後頃」は葉腐れの防除上最も重要な時期なので、薬剤散布は遅れないように適期に行う。</p>
ふじの展葉1週間後頃	トップジンM水和剤(F:1) 又はベンレート水和剤(F:1)	
ふじの開花直前	SDHI剤(F:7)	<p>[SDHI剤]</p> <p>フルーツセイバー ロンセラーフロアブル カナメフロアブル パレード15フロアブル</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項	
黒星病	[耕種的防除法] 被害落葉はかき集めて処分する。被害葉・被害果は摘み取って処分する。	<p>1 重点防除時期である「展葉1週間後頃」から「落花20日後頃」まで散布間隔を守る。</p> <p>2 「開花直前」と「落花直後」は最も重要な時期なので、できるだけ間隔をあけないで散布する。開花期間が長引いた時は、満開期を過ぎたら落花期を待たずに花が残っていても散布する。</p> <p>〔SDHI剤〕 フルーツセイバー ロンセラーフロアブル カナメフロアブル パレード15フロアブル</p> <p>〔チウラム剤〕 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル</p> <p>〔マンゼブ剤〕 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤</p> <p>※薬害欄参照 アントラコール顆粒水和剤 アリエッティC水和剤 ※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 ラビライト水和剤</p>	
ふじの展葉1週間後頃	[薬剤による防除法] チウラム剤(F:M03)		
ふじの開花直前	SDHI剤(F:7)		
ふじの落花直後	ミギワ20フロアブル(F:52) + デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)		
ふじの落花10日後頃	ユニックス顆粒水和剤47(F:9) + チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)		
ふじの落花20日後頃	デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)		
6月中旬	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はラビライト水和剤(F:1, M03) 又はチウラム剤(F:M03)		
7月初め	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)		
7月半ば	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)		
7月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)		
8月半ば	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)		
8月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)		
うどんこ病	[耕種的防除法] 芽しぶ（一次発生の被害花そう・葉そう）は見つけ次第、枝ごと切り取って処分する。		<p>※ 発生が多い園地では、「落花20日後頃」にコナケシ顆粒水和剤又はカッシーニフロアブルも使用する。</p> <p>〔SDHI剤〕 フルーツセイバー ロンセラーフロアブル カナメフロアブル パレード15フロアブル</p>
ふじの開花直前	[薬剤による防除法] SDHI剤(F:7)		
ふじの落花直後	ミギワ20フロアブル(F:52)		
ふじの落花10日後頃	【農薬節減に係る情報】を参照		
ふじの落花20日後頃	コナケシ顆粒水和剤(F:U06)又はカッシーニフロアブル(F:50) ※		

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
赤星病 中間宿主（カイ ズカイブキ、ハ イビヤクシンな ど）に4月下旬 ～5月上旬	[耕種的防除法] 園地周辺にビヤクシン類を植えない。  [薬剤による防除法] バシタック水和剤75(F:7)	1 発生の多い所では、中間宿主のビヤクシン類に4月下旬から5月上旬にかけてバシタック水和剤75を1週間間隔で2回ていねいに散布する。  〔SDHI 剤〕 フルーツセイバー ロンセラーフロアブル カナメフロアブル バレード15フロアブル
ふじの開花直前	SDHI 剤(F:7)	
ふじの落花直後	チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	〔チウラム剤〕 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
ふじの落花10日 後頃	チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	
ふじの落花20日 後頃	チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	〔マンゼブ剤〕 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤
黒点病 ふじの落花直後	[薬剤による防除法] デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	〔チウラム剤〕 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル 〔マンゼブ剤〕 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤
ふじの落花10日 後	チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	
ふじの落花20日 後	デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	※薬害欄参照 アントラコール顆粒水和剤
6月中旬	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はラビライト水和剤(F:1, M03) 又はチウラム剤(F:M03)	※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤 への注意事項欄参照 ラビライト水和剤
斑点落葉病 ふじの落花直後	[耕種的防除法] 6月下旬から不要な発育枝を切る。  [薬剤による防除法] デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	1 斑点落葉病の急増のおそれのある場合は、ポリオキシンAL水和剤(F:19)も使用する。 2 ポリオキシンAL水和剤は薬剤耐性の懸念があるので、連続散布を避け、「7月半ば」まではできるだけ使用しない。
ふじの落花10日 後頃	ユニックス顆粒水和剤47(F:9) + チウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	〔チウラム剤〕 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
ふじの落花20日 後頃	デランフロアブル(F:M09) 又はチウラム剤(F:M03) 又はマンゼブ剤(F:M03)	〔マンゼブ剤〕 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤
6月中旬	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はラビライト水和剤(F:1, M03) 又はチウラム剤(F:M03)	※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤 への注意事項欄参照 ラビライト水和剤
7月初め	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05)	
7月半ば	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05)	
7月末	アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	
8月半ば	アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	
8月末	アリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
すす斑病 すす点病 ふじの落花10日 後頃	[薬剤による防除法] チウラム剤 (F:M03) 又はマンゼブ剤 (F:M03)	1 有袋栽培では袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあげ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するように散布する。菌密度が高く、毎年のように発生が見られる園地では、薬剤散布後およそ5日以内を目安に袋かけをする。その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に袋かけを予定している樹を対象に有効薬剤による特別散布(実洗い)をしてから行う。
ふじの落花20日 後頃	デランフロアブル (F:M09) 又はチウラム剤 (F:M03) 又はマンゼブ剤 (F:M03)	2 発生が例年多い所や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晩生種の無袋果を対象に「9月15日頃」にオーソサイド水和剤80又はストライド顆粒水和剤を特別散布する。
6月中旬	アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はラビライト水和剤 (F:L, M03) 又はチウラム剤 (F:M03)	[チウラム剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
7月初め	アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はオーソサイド水和剤80 (F:M04)	[マンゼブ剤] ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤
7月半ば	アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はオーソサイド水和剤80 (F:M04)	※薬害欄参照 アントラコール顆粒水和剤 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤
7月末	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 ラビライト水和剤
8月半ば	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	1 発生が多い所や多発が懸念される場合は、「6月中旬」以降の基準薬剤の中からパスポート顆粒水和剤、ラビライト水和剤、オーソサイド水和剤80のいずれかを選択する。
8月末	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	[チウラム剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
9月15日頃 (特別散布)	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はストライド顆粒水和剤 (F:M11)	※薬害欄参照 アントラコール顆粒水和剤 アリエッティC水和剤
炭疽病	[耕種の防除法] 伝染源となるニセアカシアやイタチハギ、くるみ類などをりんご園の周りから取り除く。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。	※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 ラビライト水和剤
6月中旬	[薬剤による防除法] アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はラビライト水和剤 (F:L, M03) 又はチウラム剤 (F:M03)	※薬害欄参照 アントラコール顆粒水和剤 アリエッティC水和剤
7月初め	アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はオーソサイド水和剤80 (F:M04)	※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 ラビライト水和剤
7月半ば	アントラコール顆粒水和剤 (F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤 (F:M05) 又はオーソサイド水和剤80 (F:M04)	
7月末	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	
8月半ば	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	
8月末	オーソサイド水和剤80 (F:M04) 又はアリエッティC水和剤 (F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤 (F:M07, M04)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
褐斑病 6月中旬	[薬剤による防除法] アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はラビライト水和剤(F:1, M03) 又はチウラム剤(F:M03)	1 多発条件下では、アリエッティC水和剤は使用しない。 2 前年発生が多かった園地では、「7月半ば」又は「7月末」のいずれかにオンリーワンフロアブル(F:3)も使用する。
7月初め	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	[チウラム剤] チオノックフロアブル トレノックスフロアブル
7月半ば	アントラコール顆粒水和剤(F:M03) 又はパスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	※薬害欄参照
7月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	アントラコール顆粒水和剤 アリエッティC水和剤
8月半ば	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	※ベノミル含有剤およびチオフアネートメチル含有剤への注意事項欄参照
8月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	ラビライト水和剤
輪紋病 随時	[耕種的防除法] 枝幹のいぼ病斑はできるだけ削り取る。 [薬剤による防除法] トップジンMペースト(F:1)	1 主幹や主枝など大枝のいぼ状の病患部とその下の褐変組織は削り取って、トップジンMペーストを塗布する。 2 削り取りができない細い枝は剪去する。
6月中旬	パスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はラビライト水和剤(F:1, M03)	
7月初め	パスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	
7月半ば	パスポート顆粒水和剤(F:M05) 又はオーソサイド水和剤80(F:M04)	
7月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	※薬害欄参照 アリエッティC水和剤
8月半ば	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	※ベノミル含有剤およびチオフアネートメチル含有剤への注意事項欄参照
8月末	オーソサイド水和剤80(F:M04) 又はアリエッティC水和剤(F:M04, P07) 又はダイパワー水和剤(F:M07, M04)	ラビライト水和剤

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
白紋羽病 紫紋羽病  春～秋	[耕種的防除法] 1 肥培管理を良好にして樹勢強化に努める。 2 強剪定を避け、樹体に急激な変化を与えない。 3 発育枝を利用し、樹を若返らせる。 4 果実を成らせ過ぎると発病しやすくなるので適正な着果量にする。 5 排水溝の設置、かん水、草生栽培などを行って、過湿や過乾燥を避ける。 6 わい化栽培で発病樹跡地に苗木を植える際、植え穴(直径60cm×深さ60cm)に堆肥を施す。 7 堆肥マルチを毎年行う。処理量はわい性台樹では幹中心に1m四方に30kg(りんご箱1箱分)、普通台樹で2.5m四方に180kgとする。  [薬剤による防除法] ○新植園、改植園及び発病跡地の土壤消毒 クロールピクリンくん蒸剤(I:8B)	○新植園、改植園及び発病跡地の土壤消毒 1 薬剤を処理する前に深耕して、被害根はもちろん健全根の大きさを問わず、ていねいに拾い集めて処分する。 2 整地後、専用の土壤消毒機を用いて、30cm四方に1か所の割合でクロールピクリン5mlを深さ30cmに注入し、直ちに注入口を踏み固める。処理後には必ず厚さ0.03mmのポリエチレンフィルム又は難透過性フィルムで地表面を被覆する。 3 処理は春から秋に行うが、高温時には行わない。 4 3週間以上被覆した後、ポリエチレンフィルムを取り除き、草が生えてきたら土壤改良を行って苗木を植付ける。  ○補植時の土壤消毒 1 発病樹跡地などに補植する際、苗木植付け後の直径60cm、深さ30cmまでの植え穴部分に、土壤かん注器でフロンサイドSCの薬液250を注入する。
苗木植付け時	○植付け時の苗木消毒 トップジンM水和剤(F:1) ベンレート水和剤(F:1) フロンサイドSC(F:29)	○植付け時の苗木消毒 1 白紋羽病の場合は、植付け前に、苗木の根部をベンレート水和剤又はトップジンM水和剤の薬液に10分間浸漬するか、フロンサイドSCの薬液に20分間浸漬する。 2 紫紋羽病の場合は、植付け前に、苗木の根部をフロンサイドSCの薬液に20分間浸漬する。
苗木植付け後	○補植時の土壤消毒 フロンサイドSC(F:29)	3 白紋羽病と紫紋羽病の併発樹又は両者を区別できない場合は、フロンサイドSCを使用する。
春～秋	○露出かん注法による発病樹の治療 フロンサイドSC(F:29) トップジンM水和剤(F:1)	○露出かん注法による発病樹の治療 1 樹幹を中心に根部を掘り上げて、腐敗根の割合が8割未満の回復可能な発病樹を対象に治療し、それ以上腐敗している場合は伐採する。 2 根部をできるだけ掘り上げて露出させ、腐敗根を取り除くとともに、紋羽病の種類を診断する。 3 紫紋羽病の場合はフロンサイドSC、白紋羽病の場合はフロンサイドSC又はトップジンM水和剤を使用する。紫紋羽病と白紋羽病の併発樹又は両者を区別できない場合は、フロンサイドSCを使用する。
春～秋	○土壤注入法による発病樹の治療 フロンサイドSC(F:29)	4 1樹当たりの処理量は、トップジンM水和剤では成木で300、若木で100～300とする。フロンサイドSCでは、普通台樹の成木で300、わい性台樹又は普通台樹の若木で200とする。 5 露出した根を薬液でよく洗い、掘り上げた土にも薬液を良く混ぜ合わせながら覆土する。この際、1樹当たり完熟堆肥100～200kgを入れるか、カニ殻配合肥料5～10kgとパーライト50～100を入れると一層有効である。  ○土壤注入法による発病樹の治療 1 8～9月の早い時期から果そう葉を中心に黄変落葉が見え始めたり、葉色がやや淡くなるなど発病初期の症状を呈している軽症樹を対象に治療する。 2 動力噴霧機又はスピードスプレーヤに連結した土壤かん注器を用いてフロンサイドSCを土壤注入する。 3 フロンサイドSCはわい性台樹を対象に樹幹から半径1m、深さ30cmまで、20～30cm間隔で30～40か所、1か所2～3、1樹当たり1000の薬液を土壤注入する。なお、本剤は普通台樹において登録内での薬剤処理量(100～2000)と治療効果との関係が明らかでないため、普通台樹には使用しない。  ※ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項欄参照 トップジンM水和剤 ベンレート水和剤

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
疫病 (おそ疫病)	[耕種的防除法] 1 降雨時には収穫しない。やむを得ず収穫する場合には、果実に泥を付着させない。 2 落果や収穫の際に落とした果実を収穫果に混入しない。 3 収穫果を長く野積みせず、速やかに貯蔵する。	
根頭がんしゅ病 移植時又は定植時 挿し木時	[耕種的防除法] 1 苗木の根部及び接木部位を観察し、がんしゅ組織のみられない健全苗を選ぶ。 2 苗木の購入時にがんしゅ組織を削り取った痕跡のない苗木を選ぶ。 3 苗木育成用の穂木はがんしゅ組織のみられない健全樹から採取する。	
銀葉病 春期(剪定期)	[耕種的防除法] ムラサキウロコタケが生えた重症樹は伐採する。この場合、切株も園内に残さない。  [薬剤による防除法] 剪定後の切り口や裂傷部にバッチレート(F:M01)を塗布する。	1 剪定後の切口には、その日のうちにバッチレートを塗る。 2 風雪害の裂傷部にはできるだけ早めにバッチレートを塗る。

## 【農薬節減に係る情報】

薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除に当たっては以下の内容を確認する。

- 1 「落花10日後頃」に黒星病防除剤としてユニックス顆粒水和剤47を散布すると、この時期のうどんこ病対策の薬剤防除は必要ない。

## 【薬害】

- 1 アリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する(物理性の悪化)。
- 2 ユニックス顆粒水和剤47は、おうとうに薬害を発生させるおそれがある。
- 3 アントラコール顆粒水和剤は、すももに薬害が発生する。
- 4 ストライド顆粒水和剤は秋季の高温時に使用して、薬害を生じた事例がある。
- 5 カッシーニフロアブルはメイボール等に薬害が発生する。

## 【ベノミル含有剤およびチオファネートメチル含有剤への注意事項】

収穫後散布から翌年の収穫までの期間、ラビライト水和剤又はトップジンM水和剤を使用する場合はベンレート水和剤を使用しない。ベンレート水和剤を使用する場合はラビライト水和剤及びトップジンM水和剤を使用しない。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<p>モモシクイガ</p> <p>5月中旬</p> <p>6月中旬 ～8月末</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <p>幼虫が果実から脱出する前に被害果を採取し、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>コンフューザーR (I:-)</p> <p>※コンフューザーRによる主要害虫の防除参照</p> <p>有機リン剤(I:1B)</p> <p>エルサン水和剤40 ダイアジノン水和剤34 スミチオン水和剤40</p> <p>ピレスロイド剤(I:3A)</p> <p>バイスロイドEW イカズチWDG</p> <p>ネオニコチノイド剤(I:4A)</p> <p>バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤</p> <p>オリオン水和剤40(I:1A)</p>	<p>1 「5月中旬」にコンフューザーRを必ず設置する。</p> <p>2 「6月中旬」から毎回防除剤を散布し、「7月初め」の防除剤にはピレスロイド剤を使用する。</p> <p>3 前年に被害がなく、周辺に発生源の見られない園地で、ピレスロイド剤を使用した場合は、次回防除剤を省略できる。</p> <p>4 エルサン水和剤40は7月以降使用しない。</p> <p>5 もも、なし、日本すもも、ブルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。</p> <p>※薬害欄参照</p> <p>オリオン水和剤40 エルサン水和剤40 ダイアジノン水和剤34 スミチオン水和剤40</p>
<p>ナシヒメシクイ</p> <p>5月中旬</p> <p>ふじの落花10日後頃</p> <p>ふじの落花20日後頃</p>	<p>[耕種的防除法]</p> <p>芯折れは見つけ次第剪去して処分する。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>コンフューザーR (I:-)</p> <p>※コンフューザーRによる主要害虫の防除参照</p> <p>有機リン剤(I:1B)</p> <p>ダイアジノン水和剤34</p> <p>ネオニコチノイド剤(I:4A)</p> <p>バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤</p>	<p>1 「5月中旬」にコンフューザーRを必ず設置する。</p> <p>2 防除は有袋果、無袋果の区別なく行う。</p> <p>3 発生の多い園地では、「落花10日後頃」から9月中旬まで毎回防除剤を散布する。</p> <p>4 前年に被害がなく、周辺に発生源の見られない園地で、ピレスロイド剤を使用した場合は、次回の防除剤を省略できる。</p> <p>※薬害欄参照</p> <p>オリオン水和剤40 ダイアジノン水和剤34</p>
<p>6月中旬 ～9月中旬</p>	<p>有機リン剤(I:1B)</p> <p>ダイアジノン水和剤34</p> <p>ピレスロイド剤(I:3A)</p> <p>バイスロイドEW イカズチWDG</p> <p>ネオニコチノイド剤(I:4A)</p> <p>バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤</p> <p>オリオン水和剤40(I:1A)</p>	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
リンゴコカクモンハマキ ふじの落花直後 5月中旬	<p>[耕種的防除法]</p> <p>1 不要な発育枝は随時剪去する。また、新梢伸長が遅くまで続くような肥培管理を避ける。</p> <p>2 8月以降、果実に接触している葉は早めに取り取る。</p> <p>[薬剤による防除法]</p> <p>I GR 剤 アタプロンSC (I:15) コンフューザーR (I:-) ※コンフューザーRによる主要害虫の防除参照</p>	<p>1 リンゴコカクモンハマキは薬剤抵抗性発達の懸念があるので、連続する世代に対して同一系統薬剤の連続使用を避け、年間の使用回数をできるだけ少なくする。</p> <p>2 越冬世代幼虫が多い園地では、「落花直後」にI GR 剤を使用する。</p> <p>3 「5月中旬」にコンフューザーRを必ず設置する。</p> <p>4 第1世代又は第2世代幼虫の発生が多い所では、それぞれジアミド剤又はスピノシン剤を使用する。</p>
7月半ば	<p>ジアミド剤(I:28) サムコルフロアブル10 エクシレルSE テッパン液剤 フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル</p>	
9月以降 (特別散布)	<p>スピノシン剤(I:5) ディアナWDG デリゲートWDG</p>	
ミダレカクモンハマキ ふじの開花直前	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>I GR 剤 ロムダンフロアブル(I:18)</p> <p>BT 剤(I:11A) ファイブスター顆粒水和剤 バイオマックスDF</p>	<p>1 発生が多い園地では、「開花直前」及び「落花直後」に同一薬剤を連続して使用する。</p> <p>2 「5月中旬」にコンフューザーRを必ず設置する。</p> <p>3 「落花10日後頃」に発生が多い場合は、直ちにエルサン水和剤40を散布する。</p>
ふじの落花直後 5月中旬	<p>I GR 剤 ロムダンフロアブル(I:18)</p> <p>BT 剤(I:11A) ファイブスター顆粒水和剤 バイオマックスDF コンフューザーR (I:-) ※コンフューザーRによる主要害虫の防除参照</p>	
ふじの落花10日後頃	<p>エルサン水和剤40(I:1B)</p>	
コンフューザーRによる主要害虫の防除 5月中旬	<p>[薬剤による防除法]</p> <p>コンフューザーR (I:-)</p>	<p>1 コンフューザーRは10a当たり100本の割合で取り付ける。</p> <p>2 成木、幼木、苗木にかかわらず園地全体に均一に取り付ける。但し、園地の周辺部と、傾斜がある園地では傾斜の上部に多めに取り付ける。</p> <p>3 コンフューザーRの対象害虫はナシヒメシンクイ、リンゴコカクモンハマキ、ミダレカクモンハマキ、リンゴモンハマキ及びモモシンクイガであり、トビハマキには効果が低いので注意する。</p> <p>4 使用後は剪定時などに回収し、処分する。</p>

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
キンモンホソガ ふじの展葉1週間後頃	[耕種的防除法] 開花期から落花直後の間に根ばやを切り取る。  [薬剤による防除法] バリアード顆粒水和剤(I:4A)  I G R 剤 デミリン水和剤(I:15) ノーモルト乳剤(I:15)	1 発生の多い場合は、「展葉1週間後頃」にバリアード顆粒水和剤又はI G R 剤を使用する。 2 「7月初め」にはピレスロイド剤を使用する。 3 発生が多い所では、「7月末」に防除剤を散布する。
7月初め	ピレスロイド剤(I:3A) バيسロイドEW イカズチWDG	
7月末	ネオニコチノイド剤(I:4A) バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤  ピレスロイド剤(I:3A) バيسロイドEW イカズチWDG	
ギンモンハモグリガ ふじの展葉1週間後頃	[耕種的防除法] 夏季から枝の徒長を抑制するような栽培管理をし、越冬成虫の密度を下げる。  [薬剤による防除法] バリアード顆粒水和剤(I:4A)  I G R 剤 デミリン水和剤(I:15) ノーモルト乳剤(I:15)	1 発生の多い場合は、「展葉1週間後頃」にバリアード顆粒水和剤又はI G R 剤を使用する。 2 幼虫の下垂最盛期から10日～2週間後に当たる卵の時期に防除剤を散布する。
ふじの落花10日後頃 ～8月末	有機リン剤(I:1B) スミチオン水和剤40  ネオニコチノイド剤(I:4A) バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤  オリオン水和剤40(I:1A)	※薬害欄参照 オリオン水和剤40 スミチオン水和剤40
シャクトリムシ類 発生に応じて	[耕種的防除法] 不要な発育枝は随時剪去する。また、新梢伸長が遅くまで続くような肥培管理を避ける。  [薬剤による防除法] B T 剤(I:11A) ファイブスター顆粒水和剤 バイオマックスDF	1 発生の多い園地ではB T 剤を散布する。 2 リンゴコカクモンハマキ防除でサムコルフロアブル10、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDG、デリゲートWDGのいずれかを使用すると、ヨモギエダシャクを同時防除できる。
キリガ類 開花直前 又は落花直後	[薬剤による防除法] ロムダンフロアブル(I:18)	1 発生の多い園地では、発生に応じて薬剤散布する。

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
ヒメボクトウ 6月下旬	[耕種的防除法] 発芽前の粗皮削りを行い、産卵場所を少なくする。  [薬剤による防除法] ボクトウコンーH (I:-)	1 ボクトウコンーHは10a当たり100本の割合で取り付ける。 2 発生の多い園地では、「7月半ば」にジアミド剤を使用する。薬剤は枝幹部によく付着するように散布する。 3 リンゴコカクモンハマキ防除で「7月半ば」にジアミド剤を使用すると、ヒメボクトウを同時防除できる。 4 エアゾル剤を使用する場合は、被害部のフラスを取り除き、孔からノズルを差し込んで、薬液を噴射する。
7月半ば	ジアミド剤 (I:28) サムコルフロアブル10 エクシレルS E テッパン液剤 フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル	
発生に応じて	エアゾル剤 園芸用キンチョールE (I:3A) ロビンフッド (I:3A)	
オオタバコガ 発生に応じて	[薬剤による防除法] ジアミド剤 (I:28) サムコルフロアブル10 エクシレルS E テッパン液剤 フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル オリオン水和剤40 (I:1A)	1 発生の多い園地では、発生に応じてジアミド剤又はオリオン水和剤40を散布する。 2 リンゴコカクモンハマキ防除でジアミド剤を使用すると、オオタバコガを同時防除できる。  ※薬害欄参照 オリオン水和剤40
クワコナカイガラムシ	[耕種的防除法] 1 発芽前に粗皮削りをしながら越冬卵をすりつぶし、削り落とした粗皮は処分する。 2 6月下旬から7月中旬に、越冬世代成虫が大枝の切口や木の空洞部周辺に集まるのでブラシなどでつぶす。 3 クワコナカイガラムシの隠れ場所となる枝幹部の空洞をモルタルなどで充填する。 4 亜主枝など大枝に、段ボール紙を利用した幅15～20cm程度のバンドを一周程度きっちりと巻いて、成虫の潜伏及び産卵場所を与える。その後、バンドを除去して処分する。その際、樹体に残った卵のうはブラシなどですりつぶす。バンドは1回目が越冬世代成虫の産卵前(6月下旬)に巻き付け、第1世代卵のふ化前(7月20日ごろ)に除去、2回目が第1世代成虫の産卵前(8月中旬)に巻き付け、第2世代卵(越冬卵)のふ化前(ふじの収穫後～翌年の4月中旬)に除去する。1回目のバンド除去時に2回目のバンドを巻いても良い。	1 バンド巻きをしてそのまま放置したり、取り外す時期が遅れるとむしろ増加するので、取り外す時期を守る。 2 薬剤は幹や主枝にもよく付着するように散布する。 3 前年に果実被害がみられた園地又は樹では、「展葉1週間後頃」にアブロードフロアブルを使用する。又は、発生樹を対象に「落花10日後頃」と「落花20日後頃」にアブロードフロアブル以外の防除剤による胴木洗いを手散布で実施する。 4 越冬世代成虫が多い園地では、第1世代ふ化幼虫を対象に、「7月下旬」(7月末頃)と「8月上旬」(前回の約10日後)にアブロードフロアブル以外の防除剤による胴木洗いを手散布で行う。  ※薬害欄参照 エルサン水和剤40
ふじの展葉1週間後頃	[薬剤による防除法] アブロードフロアブル (I:16)	
ふじの落花10日後頃(胴木洗い)	有機リン剤 (I:1B) エルサン水和剤40	
ふじの落花20日後頃(胴木洗い)	ダイアジノン水和剤34 スミチオン水和剤40	
7月下旬(末頃)(胴木洗い)		
8月上旬(前回の約10日後)(胴木洗い)		
ナシマルカイガラムシ 発芽前	[薬剤による防除法] マシン油乳剤 (I:-) 50倍 ハーベストオイル トモノールS アタックオイル スプレーオイル	1 前年に果実被害がみられた園地又は樹では、越冬幼虫を対象に、「発芽前」にハーベストオイル、トモノールS、アタックオイル、スプレーオイルのいずれかを使用する。  2 発生が多い園地では、6月中旬にコルト顆粒水和剤も使用する。
6月中旬	コルト顆粒水和剤 (I:9B)	

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
アブラムシ類 ふじの展葉1週間後頃	[薬剤による防除法] バリアード顆粒水和剤(I:4A)	1 リンゴクビレアブラムシの発生が多い園地では、「展葉1週間後頃」にバリアード顆粒水和剤を使用するか「開花直前」にウララDFを使用する。  2 ナシマルカイガラムシ防除でコルト顆粒水和剤を使用すると、アブラムシ類を同時防除できる。
ふじの開花直前	ウララDF(I:29)	
発生に応じて	ウララDF(I:29) キラップフロアブル(I:2B) トランスフォームフロアブル(I:4C) ネオニコチノイド剤(I:4A) バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤	
リンゴワタムシ ふじの落花10日後頃	[薬剤による防除法] 有機リン剤(I:1B) ダイアジノン水和剤34	
ふじの落花20日後頃		
6月中旬 ～8月末	有機リン剤(I:1B) ダイアジノン水和剤34 ネオニコチノイド剤(I:4A) ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤	
カメムシ類 休眠期	[耕種的防除法] 1 越冬成虫が活動を開始する前に、越冬場所（作業小屋や落葉の下など）に潜伏している成虫を捕まえて処分する。	1 越冬成虫が落花期以降目立つ園地では、幼果期（落花10日後頃～落花30日後頃、年によっては7月上旬）に、防除剤を使用する。 2 新成虫の飛来がある場合には、飛来に応じて防除剤を使用する。 3 モモシクイガ防除でバイスロイドEW、イカズチWDGを使用すると、カメムシ類を同時防除できる。
開花期～幼果期	2 開花期に成虫が多く見られた場合には、摘花作業を行わず、被害がわかってから摘果作業を進めた方がよい。	
発生に応じて	[薬剤による防除法] 有機リン剤(I:1B) エルサン水和剤40 スミチオン水和剤40 ネオニコチノイド剤(I:4A) ダントツ水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤	
リンゴハダニ ふじの展葉1週間後頃	[薬剤による防除法] マシン油乳剤(I:-) 200倍 ラピサンスプレー ハーベストオイル トモノールS アタックオイル スプレーオイル	1 ナシマルカイガラムシ防除剤で「発芽前」にハーベストオイル、トモノールS、アタックオイル、スプレーオイルのいずれか50倍を使用すると「展葉1週間後頃」のリンゴハダニの防除は必要ない。  2 開花期にリンゴハダニの発生が多い園地では、「落花直後」にバロックフロアブルを使用する。 3 「落花10日後頃」以降、発生状況に応じて防除剤を使用する。  4 ハダニ類の防除剤（殺ダニ剤）は薬剤抵抗性が出やすいので、同一薬剤は年1回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。 5 薬剤の選択に当たっては、発生しているハダニの種類を確認するとともに、散布園における薬剤抵抗性に注意する。
ふじの落花直後	バロックフロアブル(I:10B)	
ふじの落花10日後以降発生に応じて	サンマイト水和剤(I:21A) エコマイト顆粒水和剤(I:23) オマイト水和剤(I:12C) コロマイト乳剤(I:6) ダニサラバフロアブル(I:25A) スターマイトフロアブル(I:25A) ダニコングフロアブル(I:25B) ダニオーテフロアブル(I:33)	
ナミハダニ	[耕種的防除法] 根ばやと大枝から発出している徒長枝は早め取る。	
ふじの落花10日後以降発生に応じて	[薬剤による防除法] カネマイトフロアブル(I:20B)  コロマイト乳剤(I:6)  ダニオーテフロアブル(I:33)	
		※薬害欄参照 エルサン水和剤40 スミチオン水和剤40
		※薬害欄参照 マシン油乳剤 オマイト水和剤 コロマイト乳剤

病害虫名及び防除時期	防除方法	参考及び注意事項
<b>マメコバチに着生するコナダニの駆除</b>	<b>[耕種的防除法]</b> 1 コナダニの発生が多い場合は、2～3月頃に筒を割って繭を取り出す。 2 7月初めごろから、巣筒を30～32℃の一定した高温条件に保管する。処理後40日を過ぎたら、随時抜き取り検査を行い、ほとんどのコナダニが死亡している場合は処理を終了する。	<b>○高温処理法</b> 1 高温処理の時期が早すぎるとマメコバチに悪影響が出るので、処理に先立ち、大部分のものが前蛹（繭）に達しているのを確認してから加温を開始する。 2 処理期間は30℃の場合は約60日、32℃の場合は約40日で十分である。 3 温度が30℃以下では効果が著しく低下し、32℃以上に長く置くとマメコバチに悪影響を及ぼすおそれがある。 4 加温には濡れた筒を入れないようにし、処理中、過湿にならないようにする。
<b>【農薬節減に係る情報】</b> 薬剤の連用や過剰防除を防ぐため、防除に当たっては以下の内容を確認する。 1 「6月中旬」から「8月末」にモモシクイガ防除剤としてエルサン水和剤40又はスミチオン水和剤40を散布すると、これらの時期のナシヒメシクイ対策の薬剤防除は必要ない。 2 「6月中旬」から「8月末」にエルサン水和剤40又はスミチオン水和剤40を散布すると、これらの時期のリンゴワタムシ対策の薬剤防除は必要ない。		
<b>【薬害】</b> 1 オリオン水和剤40は落果のおそれがあるため、開花後1か月間は散布を避ける。 2 コロマイト乳剤は6月下旬までの使用を避ける。 3 オマイト水和剤は7月下旬までの使用を避ける。 4 ダイアジノン水和剤34は、オマイト水和剤との組み合わせで、薬害を生じた事例がある。 5 マシン油乳剤は、エルサン水和剤40又はスミチオン水和剤40との組み合わせで物理性が悪化する。 6 エルサン水和剤40は、8月以降の散布で着色阻害を生じた事例がある。		